

名取市近郊の海岸付近（平成24年3月11日撮影）



東日本大震災の一周忌に当たって

浄土真宗本願寺派 林徳寺

住職 眞谷 誠祐

昨年三月十一日の東日本大震災とそれに伴う津波は、私たちにあって永久に忘れることのできない大災害です。

ちょうどその時間は、新潟佛教会の事務局員が会長寺院に集まって、花まつりの案内などを会員寺院に発送するための作業をしていました。私もその一人として往生院様におりましたので、なお一層印象深く記憶に残っています。

今年はその一周忌に当たりますので、地震発生の三月十一日午後二時四十六分には、市内の各寺院で梵鐘を撞いてくださるよう、佛教会で呼びかけをいたしました。

そのほか全国で犠牲者追悼の法要などが行われましたが、

私は宮城県仙台市で行われた、洋上献花の催しに参加しました。

フェリーで仙台湾を周遊し、洋上で犠牲者や行方不明者の追悼のために、参加者全員で献花をする行事でした。フェリーには石巻市の方が多く乗っておられ、体験談をお聞かせいただきました。

せっかく来たのだから仙台市や隣の名取市の復興状況を見学しようと海岸付近を車で走ってみましたが、上の写真にある通り、まだまだ復興などという状況ではないことを痛感させられる景色が広がっております。

このような景色が、福島県から岩手県に至る海岸線に、延々と続いているのでしよう。さらには福島県では原子力発電所の問題があります。この地域の方々が元の生活に戻れるまでには、どれほどの時間や資金が必要になるのかと思うと、気が遠くなる思いです。

私たち新潟人は東北地方の皆さんの最も近い隣人として、これからも継続して支援を続けていかなければならないという思いを強くして帰って参りました。

花まつり報告

- <式典> 日時：平成24年4月8日(日)午後1時より2時
会場：善導寺(新潟市中央区西堀通4番町823)
- <おねり> 式典会場から灌仏会場まで
- <灌仏> 日時：平成24年4月8日(日)午前10時より
会場：古町アーケード(旧・北光社前)
- <講演会> 日時：平成24年4月8日(日)午後3時より
会場：ホテルイタリア軒5階
講師：小島不二師(真言宗智山派 宝亀院住職)



式典



園児 献花・灌仏



おねり



灌仏会場

今年は4月8日が日曜日に当たったため、保護者の方が園児さんより大勢なのではないかと思えるほど、たくさん参加して下さいました。

また、おねりの時間帯が晴天になつて、アーケードのない通りも歩くことができた事が、有り難いことでした。今年の不順な天候から、雪の心配さえしていましたから。

旧・北光社前の灌仏会場は大勢の人であふれ、通行の方に迷惑をおかけしてしまいました。年一度の花まつりですので、どうぞお許し下さい。けれど例年以上に多くの皆さんに甘茶をお飲みいただけで、担当の僧侶一同大変喜んでおりました。

花まつり記念の講演会も、回を重ねたことから市民の皆様にご定着をしてきたように思います。満席の聴衆に、講師も張り切つて講演をして下さいました。

花まつり講演会

演題：『人生どっこいしょ』 迷惑をかけます

イタリア軒5階の一室を会場に開催した講演会ですが、おかげさまで多くの方にお出でいただき、満席になりました。ここに、講師から頂戴した講演の要旨を掲載します。



霊山などに登るとき「六根清浄」お山は晴天」と唱えて登りますが、この六根（眼・耳・鼻・舌・身・意）清浄の訛ったものが「どっこいしょ」で、六根清浄↓ろっこんしょ↓どっこいしょ、となったのだそうです。

人生は身（眼・耳・鼻・舌・身）も心（意）も清浄でなければなりません。が、現実の生活はそうはいきません。毎日が“我”と“慾”の日々ですから。従って他人様に迷惑をかけることになります。

お釈迦様は「完全に六根清浄になれ」などとは決しておっしゃっておられません。ただ少しでも六根清浄に近づきよう、日々の生活のその時その場で、努力してくださいといっておられるのです。仏教ではそれを修行とか精進と申します。みんながそのように励んだとき、家庭も学校も職場も地域社会もしあわせになり、その中に自分がいてこそ、ホントに自分もしあわせになる

という教えです。

不必要な迷惑を他人にかけないよう注意することは大切ですが、完全に六根清浄ではないのですから、結果としてどうしても他人に迷惑をかけることになります。

迷惑をかけたことに気がついたら、ゴメンネ、すみませんと素直に謝る心が大切です。おかげさまで、有難うございまして感謝いたします。また他人からうける迷惑も精々我慢しなければなりません。生まれてから死ぬまで、毎日がどっこいしょの修行です。

老人も壮年も青年も子供達も、男も女も、毎日どっこいしょ、どっこいしょと一所懸命、勤め励んで、迷惑をかけあって、お世話になって、許しあって、ゴメンネ、アリガトウがお互いにすらくと言えるようになったら、そこにすばらしいお浄土が現出します。そこは、殊更に“絆”などと叫ばなくても良い世界です。

第8回 市民のための仏教講座

日時 平成24年10月9日(火) 午後6時開演

会場 新潟県民会館 大ホール(全席自由)

会費 一二〇〇円(前売り一〇〇〇円)

講師 玄侑 宗久師

演題 『死して生まれよ』



玄侑 宗久師

臨済宗妙心寺派

福聚寺(福島県三春町) 住職

妙心寺派現代宗学委員

京都・花園大学文学部客員教授

新潟・新潟薬科大学客員教授

東日本大震災復興構想会議委員

『中陰の花』で芥川賞受賞

慶応大学中国文学科卒

《編集後記》

新潟佛教会だより「仏法僧」第三十五号を発行することができましたことに、関係各位に厚く感謝申し上げます。新潟佛教会では原則として、毎年三月の「仏法僧」(春彼岸号)とこの度の「仏法僧」(おぼん号)を檀信徒の皆様のもとにお届けさせていただいております。新潟佛教会の事業の一つでありますので、檀信徒の皆様のご理解を賜りたいと思えます。新潟佛教会は、各宗派が一緒になって四月八日に「花まつり」の行事を行ったり、秋には隔年で「市民のための仏教講座」を開催するなどの事業も行っています。

新潟佛教会は従来、新潟市佛教会として活動しておりましたが、市町村合併により、新潟市が政令指定都市になったことから、新潟市仏教連合会が新たに組織され、その結果として従来の新潟市佛教会は「市」をはずし、新潟佛教会となったのです。しかし似たような二つの組織があるのは何かと不都合が多く、両者の一体化を図るべく「新潟市仏教会立ち上げ準備会」を設け、検討を開始したところがあります。

この準備会の第一回委員会を五月二十四日に開催する予定にしております。新潟佛教会の会員各位におかれましては、ご意見等ございましたら事務局へお寄せ頂きたいと思えます。(青木)